

平成 26 年度地域教育行政懇談会等の開催結果の概要について

1. 議題

地域教育行政懇談会：家庭でのしつけやルールづくりについて

市町教育行政意見交換会：熟練教員の高い指導力の若手教員への継承について

2. 出席者

地域教育行政懇談会：P T Aや学校評議員等の学校関係者、公民館関係者や地元婦人会等の地域団体関係者

市町教育行政意見交換会：各市町(組合)教育委員(長)及び市町教育長

3. 日程・出席者等

開催日	開催地域(市町)	出席者数	
		懇談会	意見交換会
8月19日(火)	丸亀・坂綾地域 (丸亀市・坂出市・綾川町・宇多津町)	10人	13人
8月25日(月)	三観地域 (観音寺市・三豊市)	8人	12人
8月27日(水)	高松地域 (高松市、三木町、直島町)	10人	6人
8月28日(木)	東讃地域 (さぬき市・東かがわ市)	8人	11人
9月1日(月)	仲善地域 (善通寺市・琴平町・多度津町・まんのう町)	9人	18人
9月3日(水)	小豆地域 (土庄町・小豆島町)	7人	10人

4. 地域教育行政懇談会の議題に関する意見の概要

(家庭・親に関する意見)

- ◆社会のルールを教えるのは、まず家庭からである。
- ◆しつけには時間がかかるということを親が認識するべきである。
- ◆礼儀作法を教えると同時に、慣れさせることを頭に入れて、それを続けていくことが大事である。
- ◆子育ては3歳までが肝心である。
- ◆あいさつ、謝るなど基本的なことが大切である。
- ◆公共の場で子どもが騒ぐが、小さい子でも言えばおとなしくできる。
- ◆今は子どもに甘い時代だが、大人になれば厳しい。子どものうちからきちんとしかなければいけない。
- ◆甘える事と甘やかしは違う。甘えさせることは大事である。
- ◆幼稚園より下の子どもは、しつけやルールづくりの前の親子の絆を作る時期なので、親がしっかりと子どもを抱きしめることが大事である。
- ◆旅行は親が行先だけ決め、そこで何がしたいか、自分に何ができるか等を子ども自身に考えさせる。自分が楽しみや目的を持てば自然とできるし、できなければ聞いてくるのでコミュニケーションが取れる。
- ◆できるだけ夕食を一緒に食べる、食事中はTVをつけないなど、小さい頃から習慣化するよう気をつけている。
- ◆ゲームと早起きを結びつけ、朝ごはんを食べ、学校の用意ができたなら、7時30分まではゲームの時間にするルールにした。このように、子どもを惹きつけるようなことを具体的に提示して、ルールを作っている。
- ◆子どもは親の背中を見て育っている。親ができていないことは、子どももできない。親が手本にならないと、子どもはルールを守らない。
- ◆保護者の子どもへの接し方を見ると、予めきちんと決めたルールがなく、場当たりに接している。子どもが保護者の犠牲になっている。
- ◆子どもへの対応が分らない親がいるが、子どもをしつけられる親を育てるのが先である。
- ◆子どもの前で先生の悪口を言う保護者がいる。保護者が悪口を言うと、子どもが先生の言うことを聞かなくなってしまう。
- ◆子どもは大人に裏切られた経験から、大人の言うことを聞かなくなるのではないかと。我々大人が子どもを裏切らないことが大切である。
- ◆通勤の車中で食事を摂っている親がいる。子どもも同じ環境に置かれている。
- ◆飲食店で、子どもが騒いでも注意しない親が多い。子どもと親の様子を撮影し、保護者に見てもらいたい。そして、自分の姿に気づいてほしい。
- ◆子どもはスポーツをしたいと思っているが、送り迎え、大会の準備等親は協力的ではない。
- ◆保護者が子育ての中で、しつけと体罰のさびわけができていない。
- ◆今の保護者は、自分の親が厳しかった反動で優しくなっているのではないかと。厳しくすれば、下手をするとニュース沙汰になりかねず、加減が難しい。
- ◆祖父母が父母に遠慮して孫をしからない。
- ◆子どもは、力づくでは反発するが、「あなたと一緒に考えたい」というメッセージを伝えれば聞く耳を持つ。

- ◆子どもに自分で習い事を選択させるなど、子どもの気持ちを尊重することが大事である。
- ◆注意するのは大変だが、その場ですると効果がある。親が気づいた時にきちんと言い聞かせることである。
- ◆子どもが1歳なら親も1歳。親も子育ての仕方がわからないのである。
- ◆どのように子育てすればいいか学びたいが、身内に言われることは素直に聞けない。第3者の意見は素直に聞ける。
- ◆子どもが、自分のしたことで親が怒られるのを見て、自分の振る舞いに気をつけるようになった。
- ◆今は、子どもは勉強や塾で忙しく、母親は仕事で忙しい。家族が家族になりにくくなっている。
- ◆子どもとの会話があまりできていない理由に、「何を話してよいかかわからない」という回答があるが、このような悩みを持つ家庭が最も問題である。
- ◆「親の無関心」は、自分の親と接する時間が少なかったことによる、親自身の経験不足ではないか。
- ◆家庭の教育力の低下に関して、「父親の存在感の低下」が問題である。家庭内でリーダーがいないことで、何をどのようにすればいいかわからない子どもが増えている。
- ◆父親は子どもと触れ合う時間が少ないが、一日に一度は「おまえのことを気にしているよ」というメッセージを送ってやれば子どもは安心する。
- ◆昔は親が共働きでも祖父母に子どものしつけを頼ることができたが、今は核家族化が進み、子育てにかける時間や機会がない。地域のコミュニティを再生し、つながりを作る必要がある。
- ◆核家族で祖父母からのアドバイスがもらえない上に、地域に出て行かない親が増えている。今の子どもが地域と関わる経験の少ないまま親世代になるかと思うと不安になる。
- ◆地域関係が煩わしいのでPTA等に入りたがらない傾向があるが、自分の家庭がどんなに良くても、子どもは社会の中で育っていくものである。
- ◆親が子ども会活動等に積極的に関わっている姿を見せることで、子どもに、地域等への関わり方を学ばせられると考えている。
- ◆PTA活動への参加は、親子共通の話題ができて、家庭でのコミュニケーションに繋がる。

(地域に関する意見)

- ◆家庭だけでなく、地域を巻き込んでしつけを考えるべき。頭の良し悪しよりも道徳観の育成が必要である。
- ◆子どもが親の言うことを聞かないのは、「親が悪い」ということを地域の中ではっきりと言える人がいないからであり、そういう人が地域にいることが大事である。
- ◆地域のお年寄りをうまく利用して、子どもにいろいろな地域の行事に参加させ、体験させることが大事である。
- ◆たくさんの人と関わることで、いろんな価値観の人がいることを学ぶ。
- ◆小・中学校、地域の人も参加し、朝のあいさつ運動を実施している。小さいころからしていれば、大きくなってもできる。
- ◆あいさつ運動は大勢でなくても一人からできる。大人が先にすれば子どもは返してくる。関わる大人次第である。玄関先、水やりの合間など、気軽に挨拶してほしいと呼び掛けている。
- ◆自治会、PTA、民生委員などが下校時の子どもの見守りをしていると、だんだん子どものあいさつに対する考え方が地域、学校で少しずつ変化したと感じる。
- ◆県が推進していたラジオ体操が定着しつつある。地域の人がお世話をするので、今まで関わってなかった人がコミュニケーションをとれるようになるのではないかと。

- ◆若い人を地域活動にどう関わらせるか。手伝いなどの負担が増えるばかりでは、協力できない風潮がある。
- ◆親は、自分の子どもが楽しいと思うことに興味がある。子どもが楽しいと思えるイベントがあれば、親子揃って参加してもらえないのではないか。
- ◆子育てでつまずいた時、地域の人からの声かけはありがたい。
- ◆子育てについて、「相談相手がいないため、インターネットで情報収集をするが、情報が多すぎて混乱する」という声がある。子育てに必要な、親が成長する機会や場がない。

(県・市町・学校に関する意見)

- ◆親をバックアップするため、学校に一人カウンセラーを置くなど、いつでも相談できる場所づくりが必要なのではないか。
- ◆スマホについて、県や市が時間制限など決めてくれれば親も注意しやすく、説得力も増すのではないか。
- ◆家庭教育推進専門員による学習会について、県下一斉でなく、地域ごとにピンポイントで専門員を送ってほしい。しつけに関し、最低限守るべきコアの部分の話をしてほしい。
- ◆家庭教育推進専門員のチラシはよくもらうが、目にしてもあまり気に留めていない親が多い。活字離れの親に対しては、カイケツ朝ごはんのチラシのように、インパクトのある方が効果的だと思う。
- ◆保護者に見せたいチラシなら、紙ではなかなか見ないため、スマホなど、保護者がよく使うもので啓発を。見せたい人に的を絞った作り方を考えた方がよい。
- ◆県作成の冊子について、内容的に非常に良いものだと感じたが、過去に県では冊子がないと言われ、ホームページからダウンロードして使ったことがある。さぬきっ子安全安心ネット指導員、家庭教育推進専門員での普段の活動で使用したいので対応してほしい。
- ◆保護者が思いどおりにならない子育てにイラついたりするのは、子どもの発達への理解が不足しているため。県発行の小冊子「今こそ家庭教育」「3歳児のいいところミッケ!」はよくできているが、さらに子どもの発達の流れや発達段階に応じて押さえるべきポイント、教育の原点等も盛り込んでもらえれば啓発活動がしやすくなる。
- ◆子育ての仕方がわからず不安と言う一方で、未就学児を持つ親への支援策が多い。子育てしない親のための手助けばかりでは、子どもへの関わり方がわからないままではないか。
- ◆「知らない人とは口を聞くな」と家庭でのしつけがある中でのあいさつ運動は、世の中の状況を見極めながらする必要はある。しつけについて、家庭と教育現場に一線を引かなければ、保護者との間でトラブルになりかねない。
- ◆学校の先生は多忙だが、子どもが悪いことをしたら、すぐその場で注意してほしい。
- ◆家庭教育状況調査の結果から、親がしなければいけないことはわかったが、それをどう活かせばよいか、その後につなげてほしい。
- ◆読書に関して、県が23が60運動にさんろくまるをしているが、「本を読んで」と言うだけでは子どもは読まない。また、好きな本しか借りて来ない。できれば各図書館に司書を配置してほしい。
- ◆学校の先生は雑用がとて多と思う。先生の数を増やすことを考えてほしい。
- ◆学校が行事を日曜日に変更したことで保護者が参加しやすくなり、学校へ関心を持つようになった。

(その他)

- ◆価値観の多様化の中で、自分勝手な判断、とらえ方まで価値観として許されている。子育てには共

通認識が大切。何が大切なことなのかを統一しなければ、家庭教育もバラバラになる。ルールやマナーにもう一度目を向けさせることが大事である。

- ◆朝食には味噌汁や野菜を取り入れた「元気のでる朝食」づくりが必要である。
- ◆朝ごはんは、何を食べるか、誰と食べるかといった、食べ方も大事である。
- ◆聞いてもらえない親への啓発には限界があるため、子どもに直接啓発する「朝ごはんコンテスト」を行っている。宿題とすることで、親も力が入っている。一番のねらいは朝ごはんづくりを通して親子のコミュニケーションが図れること、子どものやる気が親を刺激することである。
- ◆スポーツをしている子どもたちについては、十分しつけができていると感じる。スポーツは健全育成の原点。向上心、自主性、自己責任を植え付けることができる。
- ◆読書は根っこと翼を与える。心を育むのに読書は大切である。
- ◆逃げられない状況を作らなければ聞こうとしないため、読み聞かせを学校の年間行事として組み込み、月1回、1時間目の前に実施している。読むと子どもの顔が輝く。
- ◆しつけについては、地域性もある。他県で、家庭内で役割を与えられている子どもは、あいさつや活動の中で動きが良いが、香川の子は家庭で役割を持たなくても生活していけるという環境がある。
- ◆いろいろな行事があるが、参加するのは決まった人ばかりで、来てほしい人は来ない。本当に聞いてもらいたい人にどうやって聞いてもらう場をつくればよいか。
- ◆行事や講演会に興味の湧くものを取り入れたり、魅力のあるキャッチフレーズがあれば良い。
- ◆講演会への参加者は少ないが、もの作り教室、体験教室などへの参加者は多い。親子で聞ける講演会にしたらどうか。
- ◆予算があれば、参加賞、景品などを出すことで、様々な行事に普段参加しない人も来るのではないかな。
- ◆会の資料の感想を書いてもらい、紹介することで、会に来ない人に目を向けさせられるのではないかな。
- ◆PTA 役員になかなか手を挙げないということで、ある小学校で PTA ポイント制を導入した事例がある。そういう面白い仕掛けをしていけば良い。
- ◆会への参加の呼びかけは、以前は一人ずつお願いしていたが、今は一斉メールに替わり、もう一歩踏み込んでできなくなった。そのため、人も集まりにくくなっている。
- ◆学校の先生も「こんな行事があるので参加したら良い」と声をかけてほしい。
- ◆朝食摂取について、菓子パン1つでも朝食といえるが、子どもの満足度はどうか。朝食の品数など、もっと踏み込んだ調査も必要である。
- ◆保護者に対しての調査だけでなく、子どもに対しての調査もすれば、朝食摂取や会話について、双方の思いの食い違いなどが分かっておもしろいのではないかな。
- ◆学校の先生は、勉強のみならず、しつけまで負わされており大変である。
- ◆スマホの脅威をさぬきっ子安全安心ネット指導員から話してもらい、その様子をまとめて各家庭へ配布する計画がある。
- ◆さぬきっ子安全安心ネット指導員の学習会に参加した保護者から「よかった」という声がある。地道な努力がいる。
- ◆家庭教育推進専門員のワークショップは、同じような子育ての悩みを抱える保護者同士の話し合いの場となっているのが良い。
- ◆PTA 活動で、母親自身がマナー教室をしている所が増えている。